

覽強記だとか、よく小説をそんなに覚えてゐるとか云つて感心してくれますが、之はバルザックやシェクスピアの形象力の強烈さにもよるのですね。僕もそんな強烈な形象力を以て歴史を書きたいものです。

国益社のハンコは十一月五日か六日のおひる前に飯田へ出た日で、値段はたしか五円八十八銭か何か支払つて、受取りをくれを云つたら、受取りはわたさないが、名前を云つてくれればわかると云ひました。期日は十一月二十日から二十五日に出来るかと云つたのです。店の人は二十六、七の男の人、外に女の人もゐたが、その女の人が「古典」と云ふ字の形について、これがさうだと示してくれたのです。どうも御迷惑かけますね。よろしくたのみます。

僕の痔はあれから悪くならずすみしました。まだよくはならないが、之なら大丈夫です。今度は隣の部屋がそつくりもらへるので、こたつも出来ませう。

竹中君の問題は彼と彼のお母さんとの優しい関係に、何とも強くこつちで云へないのです。彼の母は彼の第一の恋愛にも彼の幸福を思つて大いに支持したのださうだし、第二のそれにもずい分いろ／＼うまく行くやうに条件を考へてくれたのださうですが、そんな風にしてくれるので、彼としても何とか母に早く安心させたい、母の世話（血圧高くてよく寐込む）をしてあげたいと思ふのです。そこへA君がいろ／＼云つてもちこむものだから、ついイニシアティヴをA君からとりかへせないでゐる彼（彼にとつてA君は第三のリーベになりかかつてゐたのださうです。さう臼田君に云つたさうです。彼も少し気が多すぎる。それと云ふのも、あんまりお母さんつ子だからでせうね）は、そのままかせて了つたらしい。僕も彼の母の世話をしてくれるやうな女の人をさがして、此の間森井さんにもたのんでおきました。彼もいささか頼りないけれど、僕がどんなにひどいことを云つても、ちゃんと毎日やつて来てはなして行きます。

臼田君は僕には之まで得た若い生徒（？）の中で一番いい生徒だつたのでないかしら。まだ考へや行動に甘さがとれず、深さも不十分、エネルギーの持続も足りなくて、危つかしきはあるが、此の頃僕の云ふことについての理解力はずい分進んで来てゐます。彼女にはあなたに似た所が大分ある。ただ生活の苦勞が足りないのと、「津田」の自意識がわざはひしてゐる所があるやうだが。そのために物へくひつきかたがまだなまぬるい。森井さんも彼女に「あなたは余り簡単に行動しすぎる、苦しまないで行動しすぎる」と云つてゐるが、その言葉は苦しむと云ふことに關して、そのまま僕が受け入れてゐるのでないが、やはり同じ危つかしさを云ひあててゐるのでせう。

とにかく彼女は或る意味では一番いい妹ぢやないかしらと感じます。少くとも僕の思想の吸収のまじめさとその力とに於て。僕は彼女が去る時、「友情もエネルギーが要るがね、僕も君の僕に対する友情の厚みを計量するために、僕のプ

ランティションを読む義務を要求したいんだがどうかね」と云つたら、「ええ読んでみたいわ。今なら何でも読みたい、がつしりしたものを読みたい、読めると思ふの」と云ふので、「ぢやその中鶴田君から二校のゲラが来たら、森井さんと二人で読んでもらふために、原稿かゲラかどちらかを届けるからね」と云つて約束しました。北条君も中旬に帰つて来たら読んでもらふつもりです。あなたに読んでもらつて自信を得たから、先づ手近かなところから、ぼつ／＼読んでもらふことにしませう。いねちゃんも向日荘へ来るから、森井、白田両嬢と一緒に読んでくれるといいのだが、まだ彼女には、さう云ふ要求がない。森井さん白田さんは、今丁度さう云ふ要求、所謂がつしりした読みごたへあるものを読み、僕の話をもつとききたいと云ふ要求をもつてゐるので、さしあたり二人に読ませませう。

僕は白田君の工場入り決心に、僕の現在の殆ど唯一のいい生徒を失ふことになるので、可なり残念だつたが、あなたの感情も考へて、男性の生徒を養成する方がいいので、彼女の理由に若干疑問もあつたがとめなかつた。そして、もうしやべれないから、せめて「プランティション」でも読ませて、それが最後の仕上げになればいいと思ふ。彼女は僕からバルザックのことをしきりにきかされて、寿岳氏のこと以来大いにバルザックを読みながり、竹中君がここへ本を疎開させると云ふので、そのバルザックをかりることにしてゐたが、バルザックより「プランティション」の方をさきに読むと云ふので、さうさせることにしたのである。

今度彼女のかはりに来るかも知れない小田中さんと云ふのは、白田さんの二、三年後輩で、どうやら白田君の崇拜者だつたらしい。白田君はあれで「津田」でも大分崇拜者をもつてゐたらしい。その小田中君は松本に家があつて、お父さんは船に乗つてゐる人ださうだが、今度非常に若い妻君を後添ひにもらつたので、小田中さんは家へ帰りたくないと言ふのです。家では空襲のことや、兄さんが戦死して彼女あととり娘になつたので、しきりに帰れと云つて、帰らなければ補助しないと云ふ。森井さんは帰る方がいい、その若いお母さん(三十二、三らしい)と一緒に暮す方がいい、さう云ふ苦しみを体験するのもいいと云ふ。僕はいやそんな必要はない、本人が帰りたくない東京にゐたいと云ふなら東京にゐさせるがいい、そのかはり補助なしで独立してやつて行くつもりぢやないといけない、その方の苦勞の方がしがひのある苦勞だと云つたら、白田君も僕にさんせいし、中尾課長に頼んで、せめて交通費のかからない経堂分室へかはらせてほしいと云ふので、一応頼んでおいたのです。この人は、白田君のやうに強い個性的な要素がなく、スローモーションで言葉までゆつくりゆつくり云ひ、セーターをやたらにきこんで、森井さんも「あなたはさうやつてゐると、クリスマスのサンタクロースみたいね。サンタクロースの人形みたいね」と云つたくらい。大ききも白田君くらいで、もつ

とがつちりしてゐる。西山さん程ではないが。

「菊池さんの所で少し教育していただきたいのよ。小田中さんもこちらへ来たがつてゐるんだから。でもあの子は今の所、本も読まないし生活の方針もすっかりきめてゐるわけでないし、さうだわオブローモフを読まずといいのね。とにかく頼りないのよ。そのつもりでね」「そりやいいがね。それよりも僕は一体いい教師かね」「さうね、でもあたしで判断出来ないかしら。あたしだつてこんなになつたんですもの。でも菊池さんはせつかちだわ。森井さんとも話したんですけれど、あの方は菊池さんは余り相手の理解力を考慮しないから、いい教師とは云へないと云つてゐたわ。あたしもはじめ頃は、森井さんに菊池さんのレクチュアではこんな話が出たわと云ふ風に報告してゐたのよ。丁度学校でレクチュアのノートをおさらへするやうに。でも此の頃はだん／＼わかりやすくなつたわ。全部わかつてゐるのでなくても、わかる部分、吸収する部分がだん／＼多くなつて来たわ。でも小田中さんにはせつかちは駄目よ」「うんそれは注意しよう。僕は昔からきいてくれる相手がないと駄目なんだ。きいてもらつて、しゃべつてゐる中にいろんな考へがうかび、振り下げられるんだ。僕は誰かにしやべつてゐる中に自分でヒントを得て、あとで解決出来た問題もずい分あるんだよ。僕の奥さんはさう云ふ意味でも最上のききてだが、今は手紙では中々すぐの反応は得られないからね」。そんな風な対話もありました。

小田中君が僕のいい生徒になるかどうかは、どうやら僕がいい教師になるかどうかの問題らしい。森井さん白田さんは、その中またしやべりに行く約束をしてあります。あなたを疎外するわけではないから、誤解のないやうに。ペネロピがオディシウスを信じてゐたやうに信じてゐて下さい。

此の頃、定期便が本当に定期にならぬ限り、僕は防空責任でここへ釘づけになります。今日は来なければいいが。午後になつて風が出て来ました。昨夜残しておいた牛肉とねぎとかぶ菜とで、今日の昼は牛丼にしました。中々うまかつた。

今日はセンタクもやりました。パンツ二つ、ハンカチ四つ、タオル一つ、等。ついでに頭もあらひました。隣組でザブトン綿をとられました。

油も粉も豆もいももないので、でかいカブラをふかしておやつにたべたら、迎々うまかつた。すてきにあまいですね。甜菜なんかあり得るわけだと思ひました。だがやつぱりおさつの方のあまさの方がいいですね。

では又。赤ん坊は大切に。和歌山へも赤ん坊のことを云つて、和歌山行きの当分延期を報告しておいたらいいと思ひま

す。ひろちゃんの所は、和歌山県有田郡保田村屋尾だつたと思ふが、頼りないから京子にきいてみて下さい。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一〇日の記・消印）*

十二月十日

昨夜七時頃、警報が出ました。一時間半位で解けました。信越方面の山岳地帯に敵機が見えたとか。お母さん曰く「食べ物ベ物の苦しみさへ一通りでないのに、飛行機にまで苦しめられちや、やりきれやしない」おかしくて皆笑ひました。森ちゃんはまだ経過わるく、病室が変りました。ね汗、食欲不振、体重のへること、熱等、呼吸器の方が相当わるくて、仲間は皆十一月末除隊ですが、彼は病院に残されました。痔の方も一寸もなをならず、二度か三度、手術のしなをします。痔瘻ですから、あまり芳しくありません。でも今はむしろ陸軍病院に残された方が、まだと思はれます。洗濯が出来ぬので、ね汗で汚れたまゝの下着類は、虱だらけで困つたと手紙が来ました。もうすこし近ければ行つてみてやりたいのですが、弘前まではとても行け相もありませんし、宿屋の都合もつくかどうか。今は何処どこにゐても、それぞれの不便や不都合があるのが当然な時代でせう。

一昨日も昨日も便りなく、これまで、このところ毎日毎日のように書いてゐて下さつた筈だから、と心配して居ります。嫌な事のないように。病気ではないでせうね。

伊藤書店のツルタさんから何とか話がありましたか。今週始めに報告に来てくれる筈だつたのでせう。神田の辺、直接焼けなかつたとしても、いろいろ被害は蒙まつた事でせうから—あまり都合よく考へてはいけないと思つてゐますが、どんな具合だつたのでせうね。

教次さんに逢ひましたか。あの人たちもどうも矢次やじ早はやにいろんな事が起きて、本当に気の毒です。二人の間も其の後うまく行つてゐたのなら、召集が来て心配ありませんが、根本的にはうまく行つてゐなかつたのではないでせうか。赤ちゃんが出来て多忙になり、当面其の方にあらゆる努力が集中されて—今までの未解決の問題は、そのまゝ脊せ後ごへかくれてゐた状態だつたならば、と心にかかりますが、それともそんな事はキユウにすぎず、八穂やほさんの延生のぶがそれ等のわだかまりをスムーズにとかしてしまつてゐたか、それはあの二人の問題ではありませんが、元来みつちやんは積極的解決を自ら求める人ではないので。併し子供を失ふと云ふ大きな精神の打ゲキにあつては、みつちやんも深く考へずには

みられなかつたでせうね。

稲ちやんのすまるの事では、いろいろありがとう。もう無事に向日荘とかへ引越したでせうね。陸軍何々廠へもはいつたのでせうね。白田嬢も今日入社するんですね。皆、中々元気ですね。

あなたの痔の方は其の後如何です。あまりはかばかしくありませんか？ 私の一昨日からの下痢は昨日が頂上だつたらしく、今日は昨日より楽になりました。下痢すると目に見えて体力が落ち、目がチラ／＼して本もよめなくなるので困ります。今日一日注意すれば、明日あたりからすつかり恢復すると思はれます。

今日は本当に詰らない手紙ですみませんが、これで一応出しまして、又夜、警報が出なかつたら書きませう。

先月廿四日の空襲以来、大きなフトシかなんかの荷物やなべ、釜を持った人達が毎日／＼飯田に着く相です。切符の入手困難は日を追って加速度的のようですね。あなたの十二月から一月への休暇は、此の分ではどうかと思はれます。出来るなら其の際、重要な資料疎解が出来たらとも願ひますが、あまり当には出来ませんでせう。

※この手紙文は二月一〇日付け、一二日消印の封筒中に挿入されていたが、本来はその一つ前に投函された二月一〇日付け、同日消印の封筒に入っていたものと推測できるので、ここでは一〇日消印の封書として扱った。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一〇日の記、一二日の消印）※

十九年十二月十日夜

今よう／＼第三章一節（一一七）のノオト終りました。第一節は都合一日で出来ました。第一節はかんたんの様でゐて、其の中々の問題を含んでゐて面白く思ひました。明日から第二節、労働問題にはいる訳です。

一の南部工業立ちおくれの歴史も、根本的にはずつと今まで見て来た事の当然の既結であつて理解し易い。奴隷労働と近代工業労働で、前者が非人格的で自立性のないこと、後者が積極的キン張、創意ある点の対立では、私共職業婦人の立場も同様、共通したものである事を改めて感じました。女の与へられてゐる仕事は丁度奴隷労働に匹敵する。だから女事務員など、何時まで経つても仕事の面白味も解る筈なく、十年一日（人は変つても内容は）で何等の進歩もない。創意の発輝出来る、自立性のある、責任ある仕事を与へられた時（又は就いた時）は、女でもチャンとした仕事が出来、

仕事の楽しさも知り、進歩もあつて、仕事をマスター出来る様になる。そして働く事が考へをかため、生活の実になつて来るのですね。労力を非人格的に、自主性のない方法で使ふ時は、後退しかないと云ふ事が改めて思はれました。職業婦人の場合は、ほんの一寸の自主性だけでも、向上のショックを与へてくれるのです。そしてそこから新に自信を得て、更に又一步ふみ出せるのです。

ウイリアム・グレッジの楽しい工業町グラニユトヴィル(註)はどうしてあまり發展せず、そして其の町が他所に反響を起させなかつたのでせう。

(二)の立ちおくれの現状で、とに角南部では高度の機械工業の部門が発達してゐないことがわかりますが、どうして低次の原始的な部門のみ発達して、高度な工業部門が発達してゐないかの説明はつきりしてゐない。

ここまで書いて又、警戒ケイ報です。二階は規定以下にしても明るい明るい怒鳴られるので、これが出ると全く何も出来ません。それで今日は廊下の窓に毛布を一杯ひろげてかけてやりました。道路の方では屏風でかこひ、電灯もスレ／＼位に下げ、この形(小さな縦長の円錐形の図が記されているが省略―編者注)の今の上から大きな布をかぶせました。多分これなら文句は出ないでせう。

昨夜のは、信越の山岳地からはいつたと云ふのは一機か二機で、上田と上すわに焼夷弾を落下し、天竜(註)に添つて海へ出たのだと云つて来ました。飯田も余り安全ぢやないのね。

さて(四)へ行つて、工業地帯分布で、南部の工業は原料資源と直接結んでゐること―これが低次性の説明でせうか。南部の工業の立ちおくれは、工業が農業、鋳業の如き抽出産業に従属してゐるからでせうか。私、なんだかこのところがよくわかりません。鋳業、林業と云ふのは工業の部門ぢやないものでせうか。なんだかわからなくなつて来ました。鋳業―製鋼、製鉄とはちがふのかしら。

(五)は、以上をぬいて、金融関係はわかります。

(六)ここはよくわかりました。港市や海岸平野都市が南北戦争以前にあつたこと、その發生、發達はよく了解出来ます。第三の都市地帯の發展の辺は、風と共にをよんで、アトランタの町が一度戦過(註)の巷となつた戦後、物凄い勢ひで工業都市に發展するさま、北部から投機商人がかばんを持つて乗りこんで来るさま、スカーレット自身も製板工場(註)を持つて、利益が上るからと云ふので囚人労働力を使つて、人々の非難を浴びるところがあり、スカーレットの第三の夫、投機商人、密輸封鎖破りのパトラとチャールストンへ新婚旅行にゆき、南北戦争後のチャールストンの發展ぶりが展開され、

古い人々（老人）はチャールストンの町が下品で騒々しくなつたと嘆くところがあります。あれを思い出して中々面白くよみました。

(七)も又、中々、次へのキタイで面白くよみました。

どうも灯の關係が面白くないので書きにくい。

さて一昨日、昨日、そして今日、三日も手紙が来ません。五日附のまで来てゐて今日は十日なのに。どうしたのかと、とても心配です。何でもなくて、汽車の都合や配達の不都合ならいいけれど。もつとも今日十日は日曜ですから、ここ二ヶ月の日記を調べると、日曜の受信欄は何時でも／ですから、其のセイで明日、二本一諸に届くのなら文句はありません。何れにしても地理的にはたいして遠くないのに、郵便の上では四日―五日のへだたりがある時節は、離れて暮し合ふ事は不安や心配の増す事です。

下痢も回数へり、段々良好となつて来ます。なにしろ下痢や、ね汗は急速度に体力を落しますから、全く鬼門ですが、それに嫌にエンが深いので困ります。

此のごろ昔見た、ばらは何故赤いとか云ふ南部の映画があつたでせう。あんなのや、風雲児アドヴァースとか云ふ、あんなのが又見度くてなりません。南北戦争頃のはあつたし、開拓時代のはあつたけれど、独立戦争はありませんでした。平源児と云ふのは独立戦争直後のだつたでせうか。独立戦争の帰還兵の問題を含んでゐたのだつたでせうか。不注意に見てゐたので、今考へると残念です。クウパーやゲールを使つて、南北戦争のいいのを作ればいいのにね。それから歴史を作る人々だつて、独立戦争のおもしろい面が出てゐるし、映画になります。あなたのプランティションだつて、すばらしい映画に作つたら、広い層へのアッピイルや啓モウになりますね。さうすればうんと長いものになるかも知れないから、一、二、三と三部作位にして（植民時代から独立戦争、南北戦争、ニューデイル）作つたら、私の注文は皆実現する。(一)は主役は自営農民を持つて来て、プランティションとの対立斗争、(二)は北部を主役に、(三)で南部を全面的に出す。どう、すばらしいプランではありませんか(一―三まで全体に主力として、歴史の推進力たる農民、市民を強く浮き出さす事)。

書いてゐるとろくでもない事になりさうですから、この辺でやめておきませう。何だか今夜の空襲は恐ろしい様ね。ラジオが何とか云つてゐますが、遠くてきこえません。あなたの身の安全を祈つて、ペンを置きませう。 8時半

※この手紙文は二月一〇日付け、同日消印の封筒中に挿入されていたが、本来はその一つ後に投函された二月二〇日付け、一二日消印の封筒に入っていたものと推測できるので、ここでは一二日消印の封書として扱った。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一〜二二日の記）

十二月十一日（月）曇

今日はポリーナスが出るから本室へ来るやうにと電話がかかったので、竹中君と二人で出ました。

「やつぱりどうも変だね」「何が」「何がつてあれさ。何を話していいかわからないよ」「もうきめたのか。もう見合つて了ったか」「いやまだなんだがね、どんな風にはじめるのか、考へてみると変だね」「考へてみなくたって始めから変なんぢやないか。話にならんよ」「どう云ふわけで結婚する気になりましたか、つてきかうかな」「相手の方もさう云ふだらうよ」「さうだね。だけどね、実は何にも大きく気にならないんだよ。相手の方でことわつてくれるといいんだけどね。こんな不自然な人間関係なんかいやですつてね。そしたらちよつと面白くなるね、さう云ふなら一緒にやつて見てもいいわけだね」「馬鹿気てるよ。さう云ふ人なら始めからこんな話が起きんよ」「そりやさうだらうがね。何とかそこで人間関係が出来ないかな」「人間関係は出来るさ。だが問題なのは、いかなる人間関係かだ。人間的なそれか非人間的なそれか、正しいそれか正しくないそれか、だ」「でもムツターのこと思ふと、どうにもならないんだよ」「どうにもなるよ。大体ね、親と云ふのは旧い幸福観念をもつてゐるんだ。ところが親の幸福観念は現実の中では、かう云ふ時代の歩み、歴史の歩みの中ではもう実現し得ないんだよ。彼等の幸福観念、即ち息子が自分の思ひ通りに平穩無事に身をかためて、大過なくすごしてくれるやうにと云ふ風な幸福観念は、非常に遅れた卑少な頼りないものなんだ。だから親の幸福観念を息子は変革しなきゃならない。そんな時代の波のわづかなしぶきにも耐えない幸福観念のかはりに、時代の荒波を漕ぎぬけられるやうな、遅しいリアリスティックな弾力的な高次の幸福観念を与へねばならないのだ。親ははじめは、息子がとにかく親の眼鏡にかなつた嫁をもらつて身をかためて、老ひ先きを安心させてほしいと願つてゐるんだから、その息子が自分勝手に結婚すれば、自分の幸福の希望はこはされるか傷けられるかするさ。だけどその息子が自分の結婚に責任を以て、人間として夫妻として立派にやつて行けば、やがて親は、やつぱり若い者にまかせておけばちやんとやつて行くと思つて、新しい物の見方が出来る、親は息子を尊敬するやうになる。そして親は新しい世代、責任

能力ある生き方に自分の観念を適合させるやうになり、新しい型の幸福、より弾力的な幸福観念を得る。いや観念だけでなく、そのリアリスティックな物の見方自体が、親にとつて幸福なものになる。世間がより広くわかるやうになり、物の理解や認識も進むわけだ。さうするために一時親の反対を押し切つても、自信のあること、自ら正しいと思ふことをしなければならぬ。一時の親不孝は、結局大局から見れば親孝行にもなる。さう思ふんだがね」「それはたしかにさうだね。だけど中々出来ないね。僕のムツターは新しい幸福観念をもたないわけでないんだがね」「息子の君の方がもたんのだよ。君の今の親孝行は、反自然の結果として今に親を苦しめることになるよ。とにかくどたん場でも方法はあ

るからね。『或る夜の出来事』のやりかたがあるからね。せいぜい考へるんだな」。電車がとまつて乗らうとすると、ドアが両方ともひらいた、フォームの反対側のドアも。「何だ、ドアが二つともあいたぢやないか」「ドがとれたんだらうさ」「どうして」「だつてドアのドがとれたら、オア(or)ぢやないか。こつちかあつちかどちらでもと云ふわけさ」「なあんだ。シヤレか。だけど君と話すると面白いね、リクツを云つたり、シヤレを云つたり。それにしても調査会ちや外の連中、どうしてあんなにしかつめらしい顔してるんだらうね」「そんなにかつめらしいか」「きらいだよ、あんなの」「みんな先生だからな。先生はマスクが要るんだよ。何でも知つてる顔をせんといかんからな。ただ一人、人間的な表情をもち得る人が残念ながら顔面神経痛だね」「さうだね。だけど二階つまんなくなつたな。君んどこへしやべりに行けないぢやないか。唐獅子先生(西井君)いやなやつだね。君んどこへしやべりに行けないと調査会へ来る甲斐がないよ」「さうおだてても駄目だよ。そんな調子でしやべらしておきながら、全然反対の行動するんだからな。君は商人のマスクをもつてゐる。愛嬌よくて、人をおだてて、苦もなくお世辞を云つて、それでゐてちゃんと取引してゐる。先生のマスクを批難出来んぜ」「本当だね……」。

銀座で食事して二時に本室へ行きつきました。出がけに「どつちのボーがさきに出るかな」「何だつて」「いやなボーと、いいボーとさ」「ほんとだ。いやなボーがあつたね」「でも菊池さんのおでかけの時は、いつも来ませんわね」「この前の鎌倉行きの時来たでせう。そんな話をしたが、さきはいい、いい方のボーがさきに出た。金七百七十円(五十割と二十円)の額面が、金五百七十七円也の実高で。おまけに金百五十円也を互助会へ、金百円也を竹中銀行へ返せば三百円そこそこなので、互助会の方は「プランティション」が出る時まで待つてもらひました。「お得意様ですからね、いくらでも御待ちしますよ」。

西井君が待つてゐるからと云ふので、彼の分と臼田君の分と二つをもつて四時までには経堂へ帰つたので、買ひ物が出来

なかつた。二、三日中に出なほしませう。

いねちやんが十日ごろひつこすと云つてゐたから、それも見がてら、臼田君への記念品（花瓶、この間竹中君と二人で見に行つて買った金三十四円也のこんなかくかう）（花瓶の形の略図が記されているが省略―編者注）で、「飛沫袖」と云ふ）とポーナスをもつて、夕食後向日荘へ行つてみました。彼女の挺進もどうなつたかなと。

ところがいねちやんはまだ引つこして来てゐなくて、臼田君も森井さんもゐた。臼田君の挺進隊入りは駄目になつたさうで、森井さんの会社も解散しさうな状態となつてゐました。此の頃は何もかも急転するので、タンゲイを許さない。

「歯がいたくつて二、三日とちこもつてゐたんですよ。本当に痛くて昨日なんか森井さんに醜態を見られたわ。泣けてくるんですもの。こんなだつたのですよ」と、ほほに手をあてて腫れを形容する。「ウス歯（臼歯）だね。だけどンヤレどころぢやないね」「さうよ、まだ二、三日お医者に通ふわ。今日はやつと物がたべられるやうになつたところですよ」「さうだ、君はたしかに歯が悪いんだ」「どうして」「君の欠陥の第一は、歯が悪いと云ふことだ。食ひつきかたが不確かなのだ。ほら、アンネットはいい歯をしてゐると書いてたらう。あの意味の歯さ。それで挺進隊はどうなつた」

「あれ、浅草なんですよ。通つて一時間半もかかるし、あたし共の会社もごたくしてゐて、結局ことはつたのです。あたしの会社、今日行つてみたら殆ど解散みたいなものよ。社長と重役連中とのケンカでね、お酒ばかり毎日のんでい（たうとう）がみ合つてゐたのが、とう／＼来る所まで来たらしいの。寄合世帯でせう。みんなもつと分け前をとりたいてと云つて、まるで駄目なのよ。女子職員は一まづ例外なしにやめてもらつて、改組してからあらためては入つてもらふと云ふんでせう。あたしはもうゐる気はないわ」「それでどうするんです」「長野へ行かうかと思ふの。知つてゐる人が何かさがしてやると云つてくれるので。そこがよかつたら臼田さんと呼ばうと思ふのよ」「ちようどいい疎開ですわね」「それでね、菊池さん。あたしどうしようかしら。経堂へ帰れないかしら」「帰るつて。ふうん。それや帰れないわけはないだらうけど」「あたし中尾さんにお願ひにあがらうかと思ふの。辞表はまだ保留して下さつてゐるんでせう」「さうだね、まだ君のやめると云ふことについては、此の記念品以外は何にも新しい事態は生じてゐないね」「あらさうさう、記念品があつたわね。之あたしいただくわ。買ふことにすればいいでせう」「それやどうでもなるさ。君が気にするかしらないかで、気にしないでゐられるなら、帰れなくはないだらうね。それで高崎の方はどうなんだね」「お母さんは高崎へ当分居つくんですよ。家の整理が出来ないから当分あのまま、義姉達と一緒にゐるんですつて。だから中尾さんに、母がどうしても調査会をやめて一緒にすめと云ふんで行つてみたんですけど、高崎にゐるんぢや意味がないので、母を説得し

て東京にゐることにしたと云ひたいんです」「それや中尾さんも人がなくて弱つてゐるから、帰れと云ふだらうよ。だけれど今度は君は西井君の仕事も手伝ふんだよ。そしてわがままをしないと云はなければいかんよ。今度の出入りは、外形上君のわがままとして出てゐるんだからね」「さうね。本当にわがままね。でも今度は菊池さんのお仕事もすっかりお手伝ひするわ。西井さんや谷川さんともうまくするわ」「それにね、僕の今迄の部屋は四つ机が入つて、元の西井君の部屋は僕の私室になつたんだよ。僕は毎日私室から隣の研究室へ出勤するわけさ。僕の机は元のままであたたかいし、夜は小さい部屋の方があたたかさうだよ」「菊池さん、あたしたちの田舎の職場と云ふと、どんなところがあるでせうね」「さうですね。役場か工場かでせうね」「さうでせうね。でもいいわ。やつてみますわ」「ところで白田さんが帰るとなると、小田中君はどうする?」「小田中さんは迎も経堂が気に入つてしまつたのよ。どうしても経堂分室に行きたいし、若しさうならないと松本へ帰るつて云つてゐるの。困つたわね」「とにかく僕も中尾さんに交渉したんだがね、助手と云ふ形で女の子を一人づつつけてほしいつてね。僕等の仕事は助手が要るんだよ。芦野さんも承知してゐるんだ。ところがね、他の人とのふりあひがつかないつてわけさ。下は五人の研究員に女子職員二人だらう。上は二人に二人と云ふことになるからね。けれど上と下と共同で、もう一人ぐらゐてもいいんだ。上北沢なんか男が三人で女二人だからね」。彼女達の食事にお相伴しました。と云ふのは、白田君が齒^⑧いたで一回分御飯が余つてゐるので、それをパタいためしてもらつて、今夜のおかずの「すいとん」を三分の一。いねちゃん^⑨はテイ進隊には入ることにきまつたさうで、ここから通へば三十分ぐらゐで行けるし、食事もついてきつといいでせう。

「菊池さんのお話をうかがつて、あたしもいろいろくいていただきたいと思ふのですけど、何だかまだ自分の中に言葉出来ないものがあつて、それを無理に言表しようとする、そのものの本当の成長を歪めてしまひはしないかと思ふのですよ。此の間『苦しい』と云つたことについての説明も、もう暫く待つていただきたいの。まだ云へませんの。余りつきたくないのですの」。さう云はれると僕は、もう一歩も進めなくなつたわけです。「そんなものがあるのかなあ。そんなものが真実なものであり得るのかなあ。そんな、すぐには云へない、いやそれだけでなく言表の努力そのものが、それを歪めて了ふつて云ふやうなもの。聖物と云ふのは、デュルケムに云はせると個別のもの、私物に対して、社会のもの、公物だと云ふんですがね、所が今は聖物とは最も非社会的な私物になつてゐるやうな気がするな。ここからさきは入つちやいけない、私室なんだからと云つてね。ところが人に伝達出来ないもの、人と共有出来ない個物と云ふのは、少くとも歴史に役立つものでないやうに思ふ。僕はね、この二、三年来、普遍的自我^⑩と個別的自我と云ふことに

いて考へてゐるのですがね」と、ここでおはこの普遍と個別について一しきりしやべる。森井さんはその間中、編物をしながら、時々うなづきうなづききいてゐる。臼田君は時々歯を気にしながらきいてゐる。

「今日もね、竹中君が云ふんだ。『Mさんの考へもしつかりしてゐるね』とね。だから僕は『たしかにしつかりはしてゐる。だけど僕とは違ふよ。彼には機械論がある。彼の中では、んべ、えとしかつめらしいアジテーターとが同居してゐるよ』と云つた。すると彼はね、『だけど昔の連中は大たい機械論的ぢやなかつたかね。みんな君のやうだつたかね』『いやたしかに機械論が多かつた。人間と云ふもの、人間関係と云ふものの柔軟で強靱な把握がなかつた』『さうだらう。だから僕は好感もてなかつたんだよ。僕はやつぱりヒューマニズム的な考へだつたからね。ところが君はあれとヒューマニズムとを統一してゐるからね。だから僕は君の意見に魅かれるんだね』『だけど君のヒューマニズムと僕のヒューマニズムとの差がわかるかね。君のは個人主義的ヒューマニズムだ、人間としての個人の解放を欲求するだけだ、それは個我の主張にすぎない。個我は更に自らを普遍の中へと否定しなければ個性にはならない。個性とは正しく普遍に通ずる個別なんだからね。そして僕のヒューマニズムは人類的ヒューマニズムだ、個我の否定をモメントとするより大なる、より徹底的なるヒューマニズムだ』。そしてね、僕が合理主義とヒューマニズムとをこの数年、いや殆ど十年近く、誰に対しても云ひ、自らも思索して来たのは、気まぐれではないんですよ。それは世界の歴史的時代と聯関してゐるのですよ。Fascismの時代に僕は、世界的に何が人類のイデオロギー的敵であるかを考へた。そして非合理主義と非人間主義とがそれであると思つた。十九世紀末以来の非合理主義は、まだ消極的な現実への敗北の告白を主調とした。ところがこの三十年代のFascismは非合理主義非人間主義を積極的に公然と主張しはじめたのです。十九世紀末の非合理主義はインテリゲンチヤの斗争放棄の告白だつたが、三十年代のそれは危機的カピタリズムの極めて戦動的な挑戦だ。だから僕は、人類のイデオロギー的課題はヒューマニズムとラショナリズム(合理主義)とであると断じた。その時僕はリーベを体験したのです。歴史なり社会なりの非合理非人間性との斗争が現代人の歴史的課題なら、個人的人間関係に於ける非合理、非人間とのたたかひもまた歴史的課題の一翼に含まれるのでなからうか。さう云ふのが僕のリーベだつた。また普遍的自我と個別的自我についての考へは、このヒューマニズムとリーベの体験とも結びついてゐた。人は欲求をもつ。だがその欲求が人間的なものか否かを判別しない限り、その欲求は発展し得ないし実現もしない。最も非人間的な境涯におかれた人間にとつては、たゞ生きるると云ふ欲求、たべること、衣ることの欲求も人間的欲求である。ところが歴史が進んで来れば、その欲求の判別は複雑になる。その時、普遍に通ずるもの、人に共感を要求し得

る欲求と、ただ個別的なもの、人に共感を要求出来ないやうなもの、との区別が根本的になる。男女間の人間関係では、女性の欲求は、人間的なものも、個別的なものがままにすぎぬものも一緒くたに弾圧される。若し女性自らその欲求の普遍的と個別的との差を認識し得ないなら、彼女は一切の欲求を抑制するか自然発生的反抗に出でるかどちらかではなく、両方とも成功の見込みは少い。その差を認識すれば、彼女の欲求は、普遍に通ずる力、普遍的力を以て強化される。その理論は、僕達の恋愛の中できたへられた……」。

「それはさうね。ぢや加藤トシ子さんはどちらかしら、普遍に通ずる欲求かしら、それともただのわがままかしら」○
○子さんはどちらでせうね。人間的欲求かしら」と二人で共通の知人について価値判断してゐる。

「ぢや菊池さんは一体今何を要求してゐるのですか」「さうですな」「愛情を求めてゐるんぢやないのですか」「愛情、それはいつでも求めてゐる。だけど僕は今、その問にはさうは答へない。僕は正しい人間関係を求めてゐるのです。正しい人間関係と云ふことで、僕は夫婦、家族、友人、同僚、国民、人類、それら一切に於ての正しいありかた、と云ふことを意味してゐるのですよ。僕は、より真実な夫であり友であり、市民であり人民であり、人間であり、歴史に於ける自己の地位を最も正しくおきたいのです。だから僕に於ては、妻との愛も友との交友も、此の時代のインテリゲンツトとしてのありかたも、すべて統一的に『正しい人間関係の要求』の中に含まれてゐるんです。こんな答へかたぢや納得いきませんか」「それでわかりましたわ、あなたのおつしやる人間関係と云ふ意味は。それぢや、あたしの場合は、今の出版屋の諸条件を自分の力で出来る限り社会のため、歴史のためになるやうな方向へ動かせること、が任務だと云ふわけね」「まあさう云つたものですね」。

それから交友の話、歴史の話、文学の話などを通じて、大分ひえて来たので、そして臼田君の齒がいたみをまして来たので、腰をあげました。「菊池さんのお話聞いてゐると、いつもあたしもうんとしやべつたやうな気がして、迎もつかれた感じがするのよ」と之は臼田君。「菊池さんは検事のやうね」「検事?」「ええ。之もいけない、あれもいけないつて、人のいろんな遅れた要素を処断するのせう」「さうかなあ。検事かなあ」。

婦人道で僕は、何かがすうと遠のいて行つた感じがした。森井さんとは友達になれないなと思つたのです。あれほど僕が一生懸命にしやべつて、手ごたへがなかつたやうに感じる。結局別の人種に属したのかしら。彼女は彼女自身のモラルで、立派に正しく生きて来たし、之からも生きて行くなら、またさう云ふ生きかたもあるのであらうし。だがとにかく、もう彼女に話さうと云ふ気持も彼女の体験をきかうと云ふ気持も、不思議なくらい退いて了つたのです。臼田君

の方はまだわからない。とにかく、もう彼女達の方で積極的に話しかけて来るのでない限り、僕の方からは積極的に話しかけないでせう。

僕は竹中君で味ははされた敗北感を、森井さんで別様ながら再び味ははされた。白田君では、さう云ふことのないやうにとつく／＼思ひます。

十二月十二日(火) 晴曇

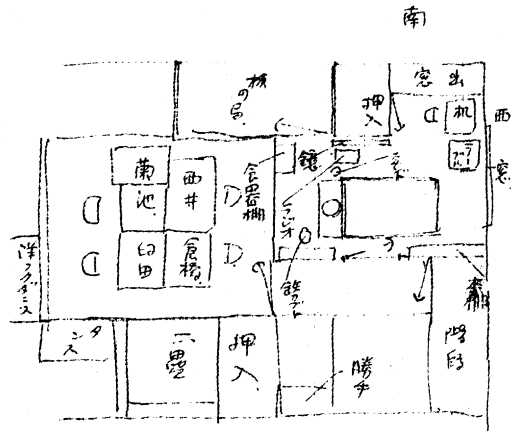
今日のことを書くスペースがないので明日書きませう。明日は鎌倉へ行きます。では。今日あなたのお手紙(9日付)をうけとりました。古典劇の批評は中々面白く拝見してゐます。ル・シツドは宮廷人の人間関係の浅薄さがよく出てゐる。モリエールと対比すると、宮廷的な人間と市民の人間との人間らしさの差がおどろくほど鮮かですね。ポーマルセエはアメリカの独立戦争に武器を売りこんでもうけましたが、スキャンダルをも引きおこしました。これについてはとにかく明日。

謙一から幸子あて(一九四四年二月一三日の記)

十二月十三日(水) 雪

初雪です。大したものではなく、朝になるともう氷雨になつてゐました。之でもつとふるとみぞれになりさうですね。石炭の火を少し多く起しました。昨日今日はカブラをふかしたのとははんだけですごしたので、今日おひるは銀座へ出てたませう。それから鎌倉へまわります。僕の鎌倉行きは天候にめぐまれません、島村君の入団は明日だから、どうしても今日は行かねばならない。鉢の木でも焚いてもらうかな。

昨夜も二度ボーがなりました。此の頃僕は次の図の如く床をしくので、空襲には前より都合いい。雨戸をしめ、完全遮光をして寝ます。夜は窓が少いせい(る)いか、今度の部屋の方があたたかい。毎夜枕下にいろんなものを準備して寝ます。すぐスタンドとラジオとをひねれます。そして一機とか少数機と云ふ場合は、そのまま寝てしまひます。でない、皆悲鳴をあげてゐる、毎晩起されて、家中あけ放さされて、見まはりやられるので、寝不足だと云つて。ここでは誰も雨戸をあけるなんて云ひに来ません。



今日も鉄カブト、ゲートル姿もりりしく出かけませう。

昨十二日は昼間ボーがならなかつた。この頃定期便は夜になりましたね。夕方、火を起してゐると、倉橋君が来た。彼は一週一回だけこちらへ来ることになりました。「どうだね、部屋もきまつたかい」「青山アパートだ。早く引っこしますよ」「で、引っこす時が結婚式と云ふわけか」「さうだね。なあに、大してやらないよ」「君の相手はどう云ふ人？」「歴研の事務をやつてくれた人なんだ。それで家の連中が反対したんだよ。まあ職場結婚の一種ですね」「そいでいいよ」「だけど此の間、みんなで話してゐたらう。あの標準からすれば、全く条件は悪いよ。親は今はどうにか承知したが、無理往生の形だらう。年は僕より一つしか下ぢやないしね。おとなしくもないだらうしね……」。と云ふのは数日前、こんなことがあつたのです。

云つてみんながどつと笑つたので、「何がぶっこはしだつて」「何がぶっこはしだつて」「いやあ、実はね、今竹中さんに結婚をすすめてゐたんですよ。折角うまい具合にやつて来たのに、あなたがあらはれたんぢや駄目ですよ。ぶっこはすにきまつてゐるんだから」「いやぶっこはしませんよ。今日は黙つてゐませう」「そいぢや続きをやらうかな」。ここにゐる並ぶ面々は、谷川（三十八才、帝大経済学部出身）八木（三十五才、帝大英文学出身）松村（三十五才、全）西井（三十六才、京大歴史学出身）の四人の既婚者と、倉橋（二十九才、東大西洋史）竹中（三十才、慶応経済学）の未婚者とです。「とにかくね、竹中さん、僕も見合結婚ですがね、結構うまく行きますよ」と八木君。松村君がそれを受けて「さうですよ。僕だって、親がちやんとすすめてくれて準備してくれて見合結婚しましたからね、別に不都合はないね。そらあ八木さんみたいに満足し切つてゐるわけぢやないけど」「おいゝ変な所へ引き合ひに出すなよ。ハハハハ」「ハハハハ、それで西井さんはいかがですか」之は谷川君。「ぼく？ ぼくが何ですか」「いやあ、あなたの結婚はどうだつた、て云ふんですよ」「ぼくです

か。ぼくもやつぱり家の世話でね、見合結婚ですよ。僕は一人やつたら不便やさかい、もらふ気になつたんやけど、この時勢に一人やつたら本当に不便やね」「僕はですなあ。僕も世話してくれてゐたおばあさんがゐなくなつてね、どうにもやつて行けんから、自分で積極的にさがして見合結婚でしたよ」「積極的にさがして見合結婚だつて」「ええ、知りあひにたのんでね。それで僕の方の条件はこれこれこれと、だからその条件でいいなら来てほしいと云つてきまつたんですが、それで別に不都合はないですな」と谷川君。「竹中さん。やつぱりね、親の意見は大切ですよ。親を中心に考へる必要はないけどね。親中心ぢやいかんけどね」「さうですよ。ほら、あの篠原凡（俳人で八木君の親友、松山へ疎開）ね。あいつの妻君^{（妻）}はあいつの中央公論にゐた頃の婦人記者なんだ。村田修子とか何とかペンネームで劇なんか書いてゐてね、中々モダンなんだがね、その妻君は恋愛結婚だけど実によい奥さんでね、僕なんかいつ行つても感心してゐたがね。ところが、凡の親父に云はすと、やつぱりいけないさうだよ。どこがつて云ふんぢやないがね」「そんなもんだよ。それから、健康は大切やな。健康ぢやないといかんわ」「さうだよ。女房に寐られると全くいやになるよ」「だけど僕のうちの女房のやうに、鈍感なのもどうかと思ふけどね」「いやあ、うちのさいくんだつて、鈍感なくらい健康だが、それでいいよ。それからね、なるだけ若いのもらひなさいよ」「さうだなあ、だけど余り若すぎるといかんね。僕なんか十ちがふからね。十ちがふと、僕も十年前は同じやうなことしか考へなかつたらうとは思ふけど、それでも、もうちつとどうかならんかなと思ふことよくあるよ。まあ三つか五つだね」「さうかなあ。僕なんか八つちがふけど、もつと若い方がいいと思つてるよ」「ホルモンの問題か」「いやホルモンの方がいいがね。やつぱり若い方がいいよ。その篠原凡ね、あいつあ三十一と三十一とで結婚したんだ。今三十五と三十五だがね、やつぱりいかんね」「そりや三十一と三十一とぢやひつつきすぎや」「それでね、その奥さん、中々美人なんだけどね、やつぱり化粧してない時は顔のしわが目立つてね。自分でも気にしてゐて気の毒だよ」「僕はね竹中さん。八木さんみたいに、女学校の成績が三番以上ぢやないといかんなんて云はないけどね。朝早く起きてくれる女房ぢやないと困るよ」「さうだ。朝は亭主より早く起きんといかんね」「僕なんか今朝一人とも寐坊して、おかげで朝食^{（朝飯）}は来たよ」「さうですな。飯の仕度がおそいのはいけませんねえ」「さいくんはやつぱり朝は亭主より早く起き、夜は亭主より遅くまで起きてなければいかん」「それぢやさいくんは寐る時間がないぢやないか」「いやあ、それや亭主のゐない時、昼間寐りやいいんだよ。それが亭主への誠意と云ふものだよ」「併しぼくなんか夜おそくまで本読むのに、フラウに起きてろなんて云はん」と西井君。「そりやさうだよ。ぼくが徹夜で仕事する時は、さきに寐ると云ふよ。それはさいくんへのいたはりだよ。だけど黙つ

て先へねるのはいかんよ」「さうやな。黙つてねられるとしゃくやな」「西井君なら、もう一つ条件あるだらう」「何が」「亭主にいつでも腹一杯くはすこと」「そらさうや。……」（僕は殆ど黙り通した）。

何十年も昔の会話かと思はれるやうなこんな結婚対談が、現代一九四四年の日本の最高学府を出て十余年学問にたぎはり、俳句や和□を余技とし、漱石やドストエフスキーやコールリッチや会津八一とかを論じてゐる知識の特権階級の間で行はれてゐるのです。

あとで竹中君も「僕だつていくらなんでもあんなんぢや満足出来ないな」「さうだらう。あれで芸術や歴史を論じ得る人間かね。あの程度の人間関係に満足してゐられる人間に、芸術や人生や歴史がわかると思ふかね。いつか八木君とドストエフスキーについて論争しただらう。そして問題は僕と八木君との本質的な差にあるのでなく、言葉や云ひまわしにあると彼は云つたらう。僕は言葉の差は、本質的な差のあらはれなんだと云つたね。どうだね、これも本質的な差ぢやないかね」「本当だね。共通点がないね」と云ひあつたもの。

倉橋君は右の大勢の談話のことを云つてゐるのです。「それでいいよ、君。あんな連中の云ふことなんか問題ぢやないよ」「いやあ、それがね、僕の場合は、あなたのやうな深い恋愛ぢやないんでね、自信はもてないんですよ」「なあに、恋愛結婚だと云ふだけで、それでいいんだ。自分が結合したんだからね、人に結合させられたりしたんぢやないんだからね。人間として自分の責任に於て結合したんだから、内容的な結びつきだ。それでいいんだよ。あとはその内容を二人でお互ひに責任をもつて、お互ひに積極的に誠実に発展させていけばいいんだ。だけども僕、火をこさへないといけなから、ちよつと失敬するよ」。

下でバタ／＼火を煽いでゐると、小使ばあさんと、いつの間にか下りて来た倉橋君が話してゐる。倉橋君は耳が遠いので、ばあさんの大声は一層輪をかけたひびきやう。「まあ／＼それぢや御結婚なんですか。あたしもね、実は、倉橋さんがおひとりなんだとおききしたものですから、知つたところにそりやいい娘さんがゐるので、お世話したいものだと申してゐたんでございますよ」「やあ、そりやどうも」「本当にいい娘さんでね。お家もいいし、どこへ出してもはづかしくない娘でしたかね。でも御結婚になつてよかつたですね。さぞいい奥さんがいらつしやつたことでせうね、ホホホ。もう、奥さんがないといけませんよ。この御時勢に一人ぢや大変でございませうからね。御両親はおそろひで？まあそれは結構で、本当におうらやましいこととございますよ。それにしても菊池さんは本当におひとりでもよく御やりになつてゐて、感心してゐるんでございますよ」とこちらへ飛火。「おひとりでもきちんとなすつてゐらつしやつて本

当に感心でございますよ。でも倉橋さんもこうして御結婚なさつたのですから、菊池さんも奥さんを御呼びしなけりやいけませんねえ」「いやあ、こう毎日、こわいものが来るやうぢや險呑で、大切な奥さんをこんな險呑なところへ呼ばませんよ」「それはさうでございますね。本当に毎日のことで、いやになつてしまひますねえ。私共もねえ、せめて衣類でも田舎へ疎開しようと思ひましてね、草架(草)の先きなんですけれど、私の里がありましてね、牛車で持つて行つてくれる筈でしたが、あの草架のあたりに松原があるの(で脱)ございますがね、その松原で追ひ剥ぎが出たんでございますよ。やはり私共の里の人で東京の疎開荷物はこんで行つた牛車が、追ひ剥ぎにすつかりとられてしまつたんですつて。まあ、何と云ふのでせう、三人強盜が出て、荷物から車から牛までそつくりとられて、馬方一人のこされたんださうでございますよ。牛までとられたんですつて、ほんとにね。ですから私共の荷物も、とりに来てくなくてはなくなつたんでございますよ。大変な世の中になつたものでございますねえ」「さうですか。追ひはぎがねえ。だんく時代がかつて来ましたね」……。

それから小使ばあさんが僕達二人をお茶に呼び入れました。僕も火の起るまでちよいと腰をおろす。「この頃はおよめさんのお荷物も大変でございます。三つか四つの嬢ちやんの嫁入り道具まで、そつくりそろへた人がゐるさうですからねえ」「さうですよ。そんな人がゐるから、ダンスも何もなくなるんですよ。僕の知つてゐる人にね、男の赤ん坊が生れたんですがね。その赤ん坊に大学の制服を作つたんですからね。寸法は今からぢやわからんが、大体親父の丈や身体(かつかう)かくこうで、このくらい(る)だらうと見当をつけてね。おどろくね實際」「本当におどろきますねえ。ダンスも何ですけれど、おふとも大変ですね。私共の知つてゐる人に、日本橋に大きなお店をもつてゐる問屋さんがございましてね、そこぢや去年、息子さんにお嫁さんが来たのでございしますがねえ、大変なお仕度でしたよ。それはねえ、そのお嫁さんが十五、六の嬢ちやんの時に、何もかもすつかりおそろへになつたのださうでございますよ。私共も前に一度見てくれといはれましてね、お座敷へとほつて拝見いたしましたのでございしますがね、それはお立派な、大変な金目のものでございしましたよ。物はみんな事変前のもので」と云つて、我々には通じない仕度品の出来を品評し、「それでその問屋さんの息子さんと話が出来、お見合ひまでして双方でいいと云ふので、結納かはしてすつかりおきまりになつたんですよ。さうして間もなく式の日取りもきまると云ふ時に、おかはいさうに、そのお婿さんに召集が参りましてねえ、行つておしまひになつたのでございますよ。お嫁さんは何もかもおそろひだつたのに、肝腎のお婿さんだけ居なくなつたなんて、本当に何と云ふことでございますかねえ。でも何ですよ、その娘さんの御両親は、もうお見合ひまでしてきめたことなのだから、

娘としてさしあげますと云ふので、仕度万端ととのへて、自動車に十台も親御さんやお仲人や御親戚ものりこんで、お嫁入りしたのでございますよ。それにしてもそのお嫁さんがおかはいさうでねえ。何もかもそろつてゐるのにお嫁さんだけ足りないお嫁入りなんてねえ。本当にお気の毒でしたよ。でも、その娘さんも感心なかたでねえ、あくる日からお店へ出て、せつせとおはたらきださうでしたよ。今はお店も転業して、軍需工場の下うけのやうなことをしてゐらつしやいますけれど、お嫁さんも一生ケン命にお働きださうでございますよ。お婿さんもよく出来た方で、戦地から親御さんとそのお嫁さんとへ隔日のやうにお便りございますうで……」。

無限につづきさうなおしやべりを、丁度火も出来たので、ポツキリと折るやうに「ああ火が出来た。どうもおばさん御馳走さま」「いいえいいえどういたしまして。お茶ばかりで本当に失礼致しました」と聞き流して、倉橋君もみこしをあげる。

『当世結婚氣質』はこのくらいにしませう。

以上は昨日のはなし。
さて初雪の今日。間もなく氷雨もやんで、いいお天気になり、雪はあつさりつけて了つて、おひる前までにあとかたもなし。

今日はお午（つご）に本室へ行き、午後鎌倉へまはるつもりで、「菊池さんのおでかけの時は大いポーはなりませんわね」「いやところが今日は鎌倉ですからね」「あら、鎌倉ですか。それでは駄目ですわ」と古田さんと云ひあつたのがそのままに、本室で警報出てしまひました。これはうっかりすると鎌倉へ行けなくなると思つて、急いで東京駅へ行き、フォームへかけ上つたら一時十八分の横須賀行きが出たばかり。「しまつた。ここでつかまつたかな」と思つたとたんに空襲警報になりました。「待避」をいつ云ひにくるか、と思つて鉄カブトをかぶつて様子を見てゐるのですが、フォームにゐる人もやはりみんな落つかない風に、鉄かぶとをはずしてみたり、防空ズキンをかぶつたり、階段の方へ思ひ切りわらく近づいて行つたり、不安気に空を見あげたり、物の気配をうかがつたり。背中の子供が母親の心の動揺を感じて泣き出すのもある。

ところが省線電車は普通にうごいてゐるので、若干脈あるなと思ひつつ、同じ思ひの人々と一緒に列を維持してゐる。三十分近くその形ですぎて、やつと横須賀行がフォームについた。人々は大急ぎに車内へとびこんで窓ぎわに席をしめる。「出てくれんかなあ。待避になつたらいつ帰れるかわからんなあ」と中学生。僕もどうなることかと思つて落ちつ

かない気持でゐると、定刻に発車。「やつと出たなあ。助かつたなあ」とさつきの中学生。走る電車から見える駅や町の人々は、みんな鉄かぶとをかぶり、黒く着ぶくれた姿で空を見上げたり、指さしたりしてゐます。車内でも時々一方の窓へおしかけて上をのどいてゐます。浜松町一帯は省線に沿つてやけ野原です。大森の駅に沿つて山の方がずつとやけあとになつてゐます。フランスやとか、あの並びは残つてゐるが、線路沿ひがやけたのです。之は数日前のこと。六郷鉄橋では目黒の方に煙が見えました。さう云へば昨夜の空襲で、西巣鴨がやけたさうです。池袋と大塚との間だなどとききました。

「おい、〇〇のやつ死んだんだつてね」「死んだよ。爆弾の破片で死んだんさ。もう葬式もすんだ」「どうしたんだい」「あいつんとこ、田舎だらう。だから大丈夫だと思つて屋根の上にあつたんだとさ。そしたら家の近くへバクダンおつたんだよ。そいでね、待避しなかつたんで怒られたんだとさ。死んで怒られたなんて、つまんねえなあ」「焼夷弾は大したことないなあ。ふみ消せるよ。だけどバクダンはこわいよ」「鉄カブトほしいなあ。今のは駄目だからなあ。あ、あの煙、燃えてんだろ。やられたなあ。どの辺だろな」「待避か、ええ。のろくなつたなあ。こんなとこで待避、やだなあ。こないだなんか新橋から品川まで一時間かかつたからなあ」。戸塚の辺から「窓をアケテ、カーテンを下して下さい」と云つて来ました。

鎌倉へついたら、待避中でしたが、どうにか出してもらつて、みつちやんとこへ。形通りあいさつあつて坐りこみました。「菊池さんのプランテーションは大丈夫でしたか」「どうにかね。でも印刷がおくれて、結局来年の始めになりさうですよ」「さうですか、でもよかつたですね。神田がやられたと云ふので、伊藤書店どうなつたかなあて云つてたんですよ」「いや、実さい大ていの本屋は何か被害あつたんですがね、伊藤だけは何にもなかつたんですよ。印刷屋とか製本屋とか紙の倉庫とかね。岩波だつて三秀社がやけて当分駄目でせう。三秀社は共同印刷の次ぐらい大きかつたさうですからね。それにしても島村君も大変ですね。だが、みつちやんはなるほど肥つたね」「ええぼちや／＼でせう。おいものせいですよ」「島村君の身体はどう?」「いやそれがね、コンディッションいいですよ」「ぼくも此の頃肥つてコンディッションいいが、大ていさう云つてるね。みんな戦時型の体質になつて了つて、安定した所へ、ちよいとおいもの増配が、そのままきめんにきいたと見えますね」。

暗くならない間に帰らうと思つてゐたのですが、坐りこんでしまふとちよいと腰があげられなくなる。ズボンにマキギャハンをまいて、合羽ならぬオーヴァ、手甲ならぬ軍手、三度笠ならぬ鉄カブトと云ふ今様股旅姿で、立ち上つてみたり

すはつて⁽⁶⁾みたり。結局ごちさう⁽⁷⁾になることにして度胸をきめたら、教次君の姉さんが来ました。「警報とけてから出たので遅くなってしまつて」と云ひ乍ら。応召の配給酒をくみかはし、おやまさんの作つて来たオイモ入りのパイを御馳走になつて、七時半に出ました。経堂へ帰つたら九時少しすぎ。ひる間あたかだつたが、さすがに夜はひえます。晩の分のごはんは明日の朝へまはしませう。今夜は来なければいいが。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一四日の記）

十二月十四日（木）晴

防火用水プールに氷がはつて、朝などコンロの火をうちわでバタ／＼あふぐその手の冷たさ。右左に持ちかへ持ちかへあふがねばならない。それでも石炭の火がどつとつくと、今までごえてゐた手もあたためられ、暫くあつた後、ピアノをひく。ショパンのプレリュードの第十五番（雨滴）をひいてゐます。下手でも一通りひいてみると感じが出ます。あのプレリュードの中で外にあなたの好きな、そして余り複雑でないもの（指を余りうごかさなくていいもの）の番号を云つて下さい。今度はそれをやりますから。

昨日島村君とこで話したのですが、みつちやんが帰る時一緒に信州へ帰つてくれないかと云ふので承知しました。尤も之は一月になります。それまでにプランティションが出ればいいが。

サッカリン（十瓦四十円）は入つたが御送りしませうか、クリスマス・プレゼントに。此の頃小包は、関西の方へは行かないやうですが、いろ／＼と交通が困難になりますね。出来たら暮にあなたがちよいと出て来てくれるといいと思ひます。日曜祭日の前後はここへとまれるし（今度は一室あるから）、いやもつと泊つてもいいし、またいねちゃんとも近いから。そしたらプレゼントを用意しておきます。往復切符ならいいでせう。おなかの赤ちゃんにさしさわらない限り。空襲は今の調子なら此の辺は大丈夫です。

お手紙48、49、50を受取つてゐます。大分心配させてすみませんでした。原稿書いてみると、ちよつと書くのがくたびれたり、時間がなかつたりすることもあり、また他処を訪問すると書きたいことは多くなつても、それだけに逐一書ききれなく、つい書くのがおくくう⁽⁸⁾になつたりしますが、之からは長くなくても確実に書くことにします。此の頃切手も

買ひにくく、小包や郵便物もつい出しおくれます。たばこ本は届きましたか。あれは六日か七日だったと思ふけれど。お手紙48のボーマルセエは中々いいぬきがきでした。ボオマルセエはアメリカ独立戦争の時、フランスの対米援助政策に一役買つて、仏政府の支持の下に軍需品販売（対米）会社を組織しましたが、アメリカ人のサイラス・ディーン等と若干醜聞に関係し、ディーンはトム・ペーンに暴露されて後にイギリスへ逃げ、独立軍に反対の立場になりました。芸術家の芸術作品と私生活及び公生活との関係について考へるにいい材料の一つです。

森ちゃんの痔瘻は厄介な時出たものですね。僕もどうもはかばかしくない。だが森ちゃんの場合はいささか痛切すぎますね。せいぜい元気づけてあげて下さい。

島村君たちの関係は、うまく行つてないと云へばうまく行つてゐないかも知れないが、さう心配するほどのことはなさうです。殊におやぢさんと別にゐる点で、花子さんやおやまさんとも、ちゃんとつきあへるでせうから、みつちゃんがふとつたのはおさつ³⁶のせいだけではないでせう。むしろ此の頃見たところでは、発展的なものは感ぜられないにしても、うまく行つてゐると云ふ方が当つてゐさうですよ。赤ちゃんの死や応召は、彼等にいい作用をなしたと考へていいのではないかしら。尤も僕は人間関係の機微については全く鈍感ですから、何とも確言は出来ないが、心配する必要はないと云ふことだけは確言出来ます。配給のことも、僕なんかの所よりはよささうだし、アパートの人達との関係もよささうだし。

それより、あなたの下痢は早くなほして下さい。今蓄積しないといけないから。二人分蓄積するやうに。

第三章の御感想ありがたう。(一)のウイリアム・グレッグの工場町の失敗は、云ふまでもなく奴隷制度が理由です。奴隷主達は工業を抑圧し迫害する。工業が近代的工業労働者をつくり出し、それが奴隷制度を脅かすから。

(二)は、高度のものが発達せず、低次なものしか南部では発達しない理由—之も労働力が低廉低級のために熟練工がゐないこと、全体として工業化が立ちおくれであること（工業化が立ちおくれであると技術が低い）、それらのことについては、たしかに充分分析も展開もしなかつた。之はスペースの関係もあり、また僕にとつては余り得手でない主題でもあつたから。

(四)の中の質問、鋳業林業が工業なのぢやないのか、と云ふのは尤もですが、アメリカでは工業とは製造、工業なのです。だから鋳業林業は抽出産業として、加工製造工業から区別される。鋳業と云つても製鋼製鉄は含まない。鉄鉱山の採掘だけです。その辺の区別のことは、センサス自身でもはつきりしない。調査する人によつて、どつちにでも解釈出来る

やうなものがいくらでもありますからね。それでも一通りは区別しなければならぬ。現実と云ふものはそんなものです。種類と云ふものは現実の中の法則（現実のあり方）の一つです。だからここでも「法則」と云ふものの規定が注意されないといけない。法則とは現実の一面であり、現実の凡ゆる豊富さを表出し得ない。しかも現実を支配するために、現実の一面的把握である法則的把握が必要です。たゞその一面的把握が、本質的に正しくないといけない。ここに法則的把握の困難がある。統計のとりかたのむつかしさ。

今日は鈴木圭介君から、電話で「プランテーション」の申し込み（二冊）がありました。彼と会つたら、また一合戦でせう。彼は上野原（中央線）へ疎開したさうです。浅野君もその近処へ家をつけたさうです。

今日の夕方から一時間防空演習がありました。

夜はひえますね。部屋はまだ片づきません。

その中、梅干を少し御送り下さいませんか。おかずのない時は、うめ干だけで食べますが、此の頃はおかずのない日が多くて（たまに来ると二、三日たてつづけに来るが）、うめ干も殆どなくなつたので、ただの塩めしだけでたべます。おみそとしよう油は明日でも買つてもらひませう。サッカリンが入つたけれど、今のところ使ひやうがない。時々チコリをのむくらいのも。おさがなくなつてから、ここの食糧事情は味気なくなりました。米だけはたつぷりあつて、一ヶ月半近くの余猶を残してゐます。だが秋とちがつて、食欲は余り旺盛でなくなり、その点楽です。やさしい配給は（百姓家の方の）一週二回ですが、カブラばかりです。かぶ菜のおひたしにもぼつ／＼あきました。従つて菜葉は可成りくさらせます。塩がもつとあれば、つけ物にするのだけれど。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一六〜一七日の記）

十二月十六日（土）晴

昨夜三時頃までかかつて書いた独立戦争の終結契機―今朝になるとまた書きなほしたくなつた。今度こそうまく出来さうなので、今日芦野氏に一応見せて、もう一辺書きなほさせてもらひませう。僕の仕事はふえて来ます。芦野氏は西井君の書いた七年戦争の摘要が気に入らなくて、あれも僕に書いてくれと云ふし、総説（戦争史の）も書かねばならない。ところが僕のつくつたフォーミュラ、芦野氏の気に入つたことはいいが、中々書きにくい。

昨十五日、いねちゃんから電話があつて、午後向日荘へ引つこすから、よろしく頼むと云つて来たので、原稿でぐづついで、午後三時頃行つてみましたら、まだ荷物が来てゐずに、いねちゃんは白田君とおしやべりしてゐました。間もなく荷物もついて、一通りおさまり、アパートの主人ともあいさつして、僕は原稿があるので五時に帰りました。ここから三十分もかかりません。歩いても三十五分くらいでせう。

帰つて今夜は徹夜のもりで火を起し、ごほんもタツプリたべて、かぶらをふかし、それから書き出したもの。二時がすぎると冷えもきびしく、ぼつ／＼おばけの来さうな時刻（此の頃は夜な夜な三時から三時半ごろあらはれます）だが、どうしたことか今日は来ないので、漸く四十枚（半ピラ）書き終つたので寐ました。四十枚のために百一、三十枚書きつぶして机中原稿紙だらけのまま。その四十枚は今日はまた三十枚ぐらいへ更にちぢめ、更に正確に書きなほしたくなつたわけです。ちよつと面白くなつて来ました。出来たらあなたへも見せるやうにしませう。

今朝は寐坊して、食事をすましたのが九時半。之から出かけます。ついでに銀座を歩いてあなたへのプレゼントを探しませう。

小包（タバコと本）とどいたのでせうか。もう何とか返事のありさうなものと思つたが、昨日も今日もお便りないので。今朝はせつかく洗つたお米のお釜をひっくり返すやら、大分骨折損をやりました。此の頃、みんな少し頭が変になつて来て、妙な失敗が多くなりました。どうやら毎夜の空襲で寐不足のせいらしい。おかげで今日のごほんは、時々ゴミが入つてジャリ／＼します。

十二月十七日（日）晴風

前の晩に寐てゐないので昨夜は早く寐ました。また夜半にお客が来ると起されますからね。所が、来なかつた。

今朝は冷くて寒い。火をうんと起して、原稿を書きはじめます。

昨日はお昼に本室へ出て、二、三の用を足し、帰りに、宮川さんのお弟子の宮本君と二人で銀座をふらつき、本などを買つて帰りました。此の頃は早目に火を起さないと、暗くなつてからでは警報が出た時困ります。

白田君は月曜から本室通ひになります。本室で女の子がどん／＼やめて、来なくなつて人が足りずに弱つてゐるので。彼女もいやがつて、僕も一応話したが、当分駄目です。

僕の信州での仕事は森井さんの知つてゐる人で、長野の商工経済会にゐる人が世話してくれさうです。まだよくわから

ないけれど、三、四月頃までにみつつけてほしいと云っておきました。

おひるにいねちゃんがちよいと寄りました。今日で彼女のひっこし完了でせう。大塚へ行きました。僕は原稿ととつくみ合ひです。面白いがむつかしい。

午前中、風が強いので、ふと思ひ出して、また「プロメトリス」を読みました。何度読んでもすばらしい。殊にあのラストのすばらしさ。何だか全篇を凄^ひい嵐の壮大な音が、ベートーヴェンの外の誰も作れないやうな巨大な厳酷な音楽が、ひびきつづけてゐるやうな感じですね。実際「プロメトリス」は人間の生んだものの最高のものの一つでせう。いい翻訳がほしいですね。

此の間、森井さんは、僕が検事のやうだ、それも後れてゐるあれもいけないと云ふから、と云つたが、僕は検事ではなく、むしろすべての人々の内心の斗争^{闘争}へ点火しようとしてゐるものではないでせうか。すべての人々を、外との内との、特に人々の目から逸しがちな内との斗ひへ呼びかけることは必要だと思ふ。その内なる斗ひへの眼をひらかれない人は、すべて、歴史の審判に処断される。歴史は今や苛酷にして一切の甘さ、不純を許さない。

今日、桃ちゃんの代筆お手紙見てびっくりしました（この代筆手紙は発見できていない―編者注）。一昨日も昨日もお手紙来ないので、どうしたかな、僕が二、三日さぼつたので、気を悪くしたかなと思つてゐましたが、身体が悪かつたのでね。寒さの折から注意して下さい。手紙も勉強も無理をしないやうに。桃ちゃんはあなたの勉強ぶりに感心してゐますね。でもそのために身体をこはさぬやうに。殊にあなたの中にあなたよりもつとかよわい者が成長してゐるのですから。昨日銀座へ出た時は、宮本君と一緒にだったので、余り女の子のほしがりさうなものを物色出来ず、あなたへのプレゼントも、一人で出た時のことにして買はなかつたが、幼児教育の本と「性格の遺伝」と云ふ本とを買ひました。

此の手紙は甚だ味気のない手紙ですが、あなたを心配させないために、今日中に出しませう。今夜もおそくまで書くために火を沢山起しました。

今日はおぶらとじやがいもとで一日くらししました。物を書く時はジャガイモが一ばん簡単でいいですね。尤もそのジャガイモは最後のジャガです。

昨日今日、海からの客が来ないが、今日なんか風があるから来たらこはいですね。ではくれぐれも身体を御大事に。桃ちゃんには明日、別に書きませう。

謙一から幸子あて（一九四四年二月一日の記）

十二月十八日（火）晴

身体が悪くて気持が弱つてゐる時に、また悪い手紙[※]を書いてあなたを不快にさせて了つたやうで、すまなかつたと思ひます。

弁解はしようと思はないが、白田君を「失つた」と云ふのは、きき手を失つたと云ふ意味だったので。さう云ふ風にも書いたつもりだつたけれど。僕にとつていい友達とは、いい「聴き手」のことである場合が多い。僕は人にしやべることによつて物を考へる。書くことは今の時代では自由でないし、思考を發展させるためには、書くより人に話す方はるかに有効です。相手の反応が目に見えるから。そして竹中君と白田君とが今の僕の「きき手」だつたが、その竹中君の「きき方」の頼りなさを痛感させられつつあつた此の頃は、白田君は殆ど唯一つの「きき手」だつた。それが去つたから「失つた」と云つたのです。そして白田君の工場行きに若干疑問のあつた僕が、それを云はなかつたのは、たしかにあなたの感情を考へてであつた。と云ふのは、僕が彼女をとどめることが、あなたに誤解されはしないかなとちらと思つたのだから。僕はあなたと一緒にゐるやうな気持であつて、少しでもあなたに誤解される可能性のあることを抑制してゐる此の頃です。だが、あの時は、白田君に歴史のレクチュアをやる予定で（竹中君も加へて）少し準備もしてゐたので、殊に残念の度が強く、ついあんな風に、あなたの僕に対する精神的拘束力へ皮肉を云つてみたかつたのです。僕はまだどうも異性の友と交はる時、あなたの気持をはばかり癖をなくせない。そのことが却つてあなたの気持をこたはらせることだのに。

殊に此の頃のあなたの出かたは、いやです。何かと云ふとすぐ、僕を誰かと恋をはじめて、あなたから去ると云ふ風にとり、どうせ自分は期待さるべき何物もないのだから、どうか御自由に、と云ふ風に出る。之は今後絶対によめて下さい。そんなに僕が信じられないのですか。そんな風な出かたをされると僕は何とも云ひ難く不愉快になる。僕がこれまで、あなたの信頼を裏切るどんな事をしましたか。何かと云ふと村田さんを出すか、あれだつて、東大春秋のつき合ひから、彼女が黒岩君や高野君と下宿を訪問し合つてゐるのを知り、都会の新しい文化人ならその程度の自由な交はりも普通だと思つて、交はつてゐるにすぎない。そりや異性ととの交はりにはつきものの情緒的な要素も魅力だつたことは事

実だが、それ以上のいかなる気持も絶対になかった。白田君とのつき合ひでもさうです。所があなたがこだはるので、ついこちらからもこだはる気持が出来て、自由でなくなる。かう云ふことはどうも不自然だと思ふ。あなたが僕を本当に信じてゐてくれれば、僕は絶対に裏切らないのですから、もう少し自由にさして下さい。すぐ誇張してつたり、自分は健康も何も駄目だからとか、そんなことを云はないで下さい。そんな風にこだはることが、僕の人間理解や交友をどれだけ不自由にしてゐるか。僕はもつとしつかり貴女に結びついてゐるつもりなんだから。一時的な感情の表出や動きやを、そんなに誇張してつたりしないで下さい。僕があなたをどんなに大切に思つてゐるかは、筆や口に出す必要もないくらいです。とにかく信頼してゐて下さい。時々僕が、あなたの気持をはばかり自分の癖への反抗として、意地悪いやうな、皮肉なやうな筆づかひをしても、さう気にしないで下さい。僕もあなたの気持をはばかりことをやめ、皮肉を云つたりしないやうに努めるから。そんな風なことについて、いろく^①とまわりくどく説明したり釈明したりすることほど、不愉快で創造性のないことはない。つまらない誤解と云ふものは全く時間や精力の損失以外の何ものでもない。本当にこれから絶対に信頼して、自分が駄目だの何なのとは云はないで下さい。僕も注意するから。

それより、積極的にあなたが白田君と文通でもしてくれたい。僕達は友人を共有したいといつても思ひ、だからこそ、いつもあなたをあちこち引つぱつて歩いたのだから。白田君は、本室の資料部へまわされて二、三日前から通つてゐる筈です。僕の所へは誰が来るかまだわからない。

それより、あなたの身体はどうだったのですか。今は誰でも何か足りなくて、ちよつとした故障からいろんな故障を呼ぶものですから、本当に注意して下さい。僕なんかも、まだ痔がなほり切らない。

ダイヤモンドの原稿、大分手きびしい御批評で、参りました。あなたの御批評はたしかに當つてゐるのですが、之にも少しばかり弁解したい。と云ふのは、あれは「日報」への原稿かと思つたので、前に書いたこととダブらないやうに、前には書かなかつただけ書いたのです。そして現代の南部のことは「本誌第何号から何号まで連載の戦争政治の稿参照」などと書いたのです。だから専ら歴史の方を書き、現代のことは二、三のエピソードだけにしましたのです。それが雑誌にのつてゐたので、ぼくもびつくりしました。とはいへ、考へてみると、あの原稿の調子がかたくて、新聞にはのせられるものではなかつたと思ふから、やつぱり何と云つても、僕はある枚数をこなせなかつたのだと云ふ外ない。

どうも「日報」と云ひ、「グローヴ」と云ひ、今度の「ダイヤモンド」と云ひ、しばらくすでちつともいい所がない。その中でも若干自信のあつた「グローヴ」は台なしにされるし。「グローヴ」の原稿は鶴田君にきいたが駄目でした。

英語が出たら、その僕の方だけを逆にホンヤクしてあなたに送りませう。

二、三日前から「独立戦争終結の諸契機」と云ふのを書いてゐるのですが、そのためには日曜の夜は殆どテツ夜したが、漸く僕のシーズンが来たと云ふ感じになりました。書きなほすこと三回、今やつと満足なものに近くなつたのを、今日芦野氏に渡して来ました。尤もまだ少し残つてゐるが。明日芦野氏が何と云ふか。と云ふのは彼の註文は十五枚だが、それを三十枚にしてつたので。

書き方をぐつとかへて次のやうにしました。

一、米国独立戦争の歴史的意義

二、戦争目的

①イギリス側 主目的—攻撃的／副目的

②アメリカ側 主目的—防禦的／副目的

三、政略戦略

①英軍戦略 初期（北部作戦）—短期戦戦略—失敗

後期（南部作戦）—長期戦戦略

②アメリカ政略

戦略 初期／後期

四、戦局転機

①ロングアイランドの戦（長期戦となる）

②サラトガ戦と米仏同盟（戦争帰趨の決定）

③北カロライナ作戦—南部作戦失敗

④ヨークタウン陥落—戦争終結

五、戦争終結の諸契機

①アメリカ防禦力の民衆的内容

軍事／政治／経済社会的基礎

②イギリス攻撃力の内容（短期戦の失敗と戦争目的挫折を導いた理由—国民的基礎の欠除）

軍事／政治及び外交／経済社会的事情 六、結論

右のやうにした結果、問題はすこぶる明快に規定されました。ためしに竹中君と本田さんとに話してみましたら、大変よくわかると云ひ、竹中君の如きは、その形でいろんな戦争を書いて、本にしたらしいのにとしきりにすすめました。完成したら、写しをとつて、あなたに送りませう。南北戦争もさうするつもりです。

だが僕が今シーズンが来たと云つてゐるのは、この形の原稿ではない。もつと本格的な独立戦争が書けさうになつたので、それをやつてみようと思ふのです。とにかく今書いてゐるものは、「戦争終結」にしても、この年の後半期にかいたものとは気組みがちがひます。「グロヴ」なんかも何日も半テツ夜して三回も書きなほしたが、今度のはちがひます。やはり二番煎じだった。今度のは二番煎じではない。今度のは新しい洞察もは入つてゐます。自分でもオリヂナリテイのある独立戦争が書けると感じる。僕は仕事の出来るのはいつも冬ですから、今度も、ああ僕のシーズンが来たなと感じたのです。幸ひ部屋も落ちついて書きよい。部屋は次のやうにしてあります（四八五頁にある間取り図の私室部分が再掲されているが省略―編者注）。

窓は雨戸をしめ、防空暗マクをはつてあるし、石炭コンロの火は朝七時前に起したのは午後二時頃まで、夕方五時前のは十二時頃まで暖いから、ステキです。この日曜日は夕方四時に起して、十一時すぎにぼくが火をかき立てたりしたためかへつて悪く、十二時ごろから火なしになり、午前三時四時になると冷えがすごく、たまりかねて床には入つたが、身体がひえ切つてゐる足なんか氷のやうで、どんなにしても眠れず、とうとう六時にまた起きて、火を起してやつと人心地になつたくらいでした。あとでカイロがあつたことを思ひ出して、あれさへ気がついてゐたら、少しは眠れたらうにと大いに後悔したものです。

六時半ごろはまだくらいですね。毎朝コンロの火をバタ／＼起してゐると、今年の一月を思ひ出します。あなたのつくつてくれた軽いぎんは大いに重宝してゐます。昼間でも時々つけて、やつてゐます。

昨日は原稿で夢中になつて、とうとうあなたへ書けませんでした。夜は前日のテツ夜のため眠くて、十一時に寝たと思つたらサイレンで眼がさめたが、またすぐ眠つて了つた。今日は朝中かかつて原稿を書き、午後菅野氏に見せに行つて、本田さんとしやべり、浜田恒一、小野氏等から「プランティション」の註文を受け、神田へ出て本を少し買ひ、小此木君を訪ねた。朝彼から電話があつたので。小此木君にも独立戦争のことをしやべり、サトウ入りの紅茶を二はいごちさ

うになり、物凄いラッシュアワーを省線で帰った。

此の頃は、ラッシュは一頃よりもつとすごい。みんなナベやらぎぶとんやらを背負つたりかぶつたりして、時々ホウチヨウも邪魔になり厄介です。東海道線不通で北陸まわりは凄くさうですね。中央線はどうかしら。今甲府以西は売りませんね。

小包みがかからないとはどうしたかな。たしか七日か八日だったと思ふが。書き留です。次のたばこも送りたいが、つかないやうぢや困りますね。サッカリンも買つてあるので一緒に送りたいのだが。あなたへのプレゼントも。今は旅客も荷物も一番輻綜してゐる絶頂かもしれないですね。だつたら来年の始めにでもませうか。その頃旅行出来たらみつちやんと信州へ行きます。その時「プランテイション」を持つて行けるとすてきなんですがね。「プランテイション」はまた広告が大学新聞や朝日新聞に出はじめたから、きつと近々出るのでせう。空襲と検閲、この最後のスキュラとカリプデイスだつたかな。とにかく二大難関を突破出来さへすれば。伊藤君も「プランテイション」が出たら祝盃をあげる価値がある。今時ああ云ふものが出ると云ふだけでもね」と云つてゐたが、僕も早く祝盃のあげられる日を待ちのどんでます。あなたもさうでせうね。あれを持つて信州へ祝盃をあげに行きたいもの。

明日は芦野氏の来る日で、僕の原稿を何と云ふか。
此の頃空襲は中部地区の方が主になりましたね。飯田辺はどうなんですか。他分上田とか長野とかへ行つてゐるのでせうが、南信へ焼夷弾を落したと云ふのがありましたね。

※この「悪い手紙」というのは、おそらくは二月一日、謙一が幸子あてに書いた手紙のことであろう。それにたいし不快感を表わした幸子宛の手紙は発見できていない。

幸子から謙一あて（一九四四年二月一九日の記、二〇日の消印）

十二月十九日

十三、十四、十五附お手紙、一諸にうけとりました。此のごろ郵便の具合わるい様ですね。折角お送り下さつたと云ふ煙草も未だに着きませんの。とられてしまふか紛失したのでせうか。残念です。書留なら晩くなつてもなくなる事